



震度7の激震 地すべり・斜面崩壊3,791か所

2004（平成16）年10月23日17時56分頃、新潟県中越地方をマグニチュード6.8の激震が襲い、震源地の川口町（現長岡市）では観測史上初めて震度計による震度7を記録した。この地震により、新潟県内では死者68名、負傷者4,795名、住家全壊3,175棟、半壊一部損壊等約11万棟以上の被害となった。中越地方では、地すべり・斜面崩壊が3,791か所で発生した。多くの道路が亀裂や陥没、土砂崩れ、崖崩れなどによって寸断され、上越新幹線は長岡市内で走行中の車両が脱線し運行できなくなった。



つないだ記憶がモシモを救う Vol.4 ● 中越大震災
あれから
20年
中越大震災
2004.10.23
BOSAI GENSAI NIIGATA PROJECT 2024



中越大震災の概要と被害

- 発 生 / 2004（平成16）年10月23日 17時56分
- 震 源 地 / 新潟県北魚沼郡川口町北部
（北緯37度17分、東経138度52分）
深さ約13km
- マグニチュード / 6.8
- 震 度 / 震度7（川口町）
震度6強（小千谷市、山古志村、小国町）
- 死 者 / 68人
- 重 傷 者 / 632人
- 軽 傷 者 / 4,163人
- 住 家 全 壊 / 3,175棟
- 住家大規模半壊 / 2,167棟
- 住 家 半 壊 / 11,643棟
- 住家一部損壊 / 104,619棟
- 非住家被害 / 41,737棟
（公共施設他）

参考文献：「新潟県被災市町村復旧記録」新潟県報道課、2009-10
※市町村名は震災当時

記憶を大切につないでいく。他人ごとから自分ごとへ。

「あの時」を振り返ってみよう

もう20年経ったんだね。
中越大震災のこと、覚えてる？

うっすらと、かな

観測史上、震度計がはじめて
震度7を記録したんだ

でも、新潟の人の多くは
『ここで起こるの？』って
思っていたんじゃないの

それは、
否定できないな

自分のところには起こらないって。
だから、一人ひとりの心構えも、
今でこそ一般になりつつある
備蓄も、十分とは言えなかった

自分ごとにするにはどうすべきか、
そんな教訓が残された
災害でもあった

避難生活をどうすべきか。課題は今も

被害状況を見てみると、
亡くなったのは68人。
そのうち52人が「災害関連死」だった

さいがいかんれんし？

避難した後に、精神的なストレスや
疲労が重なって亡くなること。
「エコノミークラス症候群」では
7人もの人が亡くなって、
この言葉が目された

今ではよく耳にするけど。
そうだったんだ

中越大震災では
「エコノミークラス症候群」の
全員が車中泊だった。
避難生活をどうすべきか、
大きな教訓として残されたんだ

二次的な被害も考えないと
いけないんだね

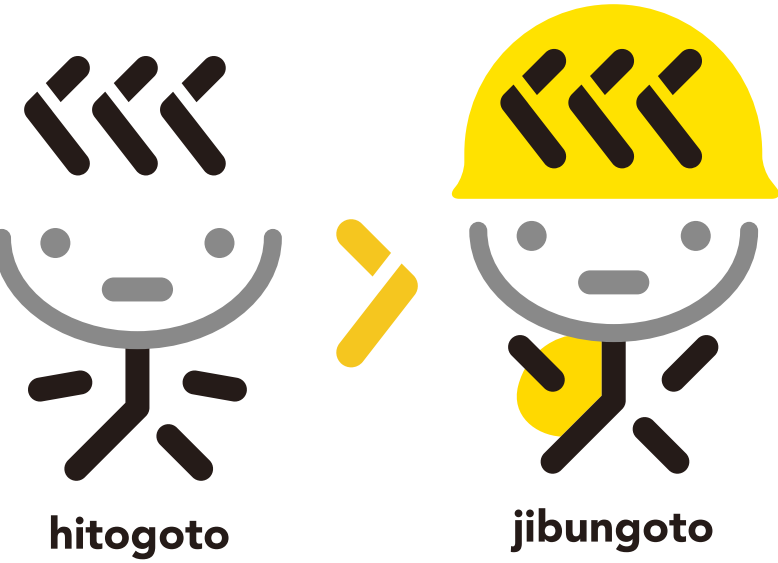
過去を教訓に「自分ごと」にしてみよう

中越大震災は中山間地が
震源地だったことで、
非常に多くの山崩れや土砂崩れが
発生したことも忘れられない。
道路が分断され、
集落が孤立したところもあった

その映像は記憶にある

自分ごととして考えるには一つ、
記憶を風化させないこと。
例えば「中越メモリアル回廊」と
いう試みがある。
震災のメモリアル拠点である
4つの施設と3つの公園を結び、
巡ることで震災の記憶と復興の
軌跡に触れることができるんだ。
過去を振り返ることで、
自分ごととして考える
きっかけになるといいね

どう受け止めて生かすか、
こちら側も問われている気がするよ



つないだ記憶がモシモを救う
防災・減災
にいがたプロジェクト
2024

もっと詳しく知ろう。中越大震災のこと

長岡市・小千谷市
公益社団法人 中越防災安全推進機構
中越メモリアル回廊 特設サイト



長岡市山古志（旧山古志村）を襲った土砂災害、そして復興とその後

令和6年10月26日（土）10:30～
ミライエ長岡 長岡市大手通2-3-10
問：湯沢砂防事務所 tel 025-784-2073



車中泊避難訓練

令和6年11月1日（金）・2日（土）
魚沼市小出郷文化会館 魚沼市千瀬1848-1
問：魚沼市防災安全課 tel 025-792-9214



自分ごとにして「わが家」の防災力を上げよう！

Check! その4
ご近所から「互近助」へ。
つながりを育んで防災・減災

「近助」を防災の基本に

「互近助（ごきんじょ）」とは「向こう三軒両隣」のご近所同士、顔の見える人同士が積極的に助け合うことを指す造語です。大規模な災害時には自治体も被災して公助には限界があり、不特定多数の「みんな」による共助は曖昧。その点、顔の見える互いを助け合う「近助」は実効性が高いと言えます。実際、阪神・淡路大震災では、地震直後に閉じ込められた人の救出にあたったのは、圧倒的に「近くの人」でした。「助ける」は、手を差し出すだけではなく、安否確認をしたり避難する時に声をかけたり。自身が高齢者でも、だれかの代わりに助けを求めたり、避難時に声をかけたりすることは

できます。そうやって自ら動いてお互いを助け合えば、防災・減災につながります。

「防災隣組」「ご近所パントリー」

「互近助」の取り組みは既に各地で始まっています。マンションのフロアごとに「防災隣組」があったり、隣近所で備蓄を行う「ご近所パントリー」があったり。昔ながらの「隣組」を改めて見直し、普段からご近所でつながっておけば、いざという時に大きな助けになります。「防災のために」と構えず、昔ながらのご近所つながりを取り戻すことで自然と防災になる。それぞれが住む場所で、ご近所の関係を見直してほしいですね。



防災システム研究所 所長 山村 武彦氏

1964年、新潟地震での災害ボランティア活動を契機に、防災と危機管理のシンクタンク「防災システム研究所」を設立。以来60年にわたり、国内外で発生する災害の現地調査を行っている。主に報道番組での解説や講演、執筆活動などを通じ、防災意識の啓発に取り組む。また、多くの企業や自治体の社外顧問やアドバイザーを歴任し、本場に見える実践的な防災マニュアルやBCPの策定、監修など、災害に強い企業、社会、街づくりに携わる、著書多数。



中越大震災によって、雪国の家は雪の重みには耐えられるよう建てられているものの、横揺れには厳しいということが見えました。「どこでも地震は起きる」と捉え、地震リスクに対する耐震補強を、改めて考えておきましょう。

●私たちは、新潟の未来のためにこのプロジェクトに取り組んで参ります。【県市町村】新潟県／新潟市／長岡市／三条市／柏崎市／新発田市／小千谷市／加茂市／十日町市 見附市／村上市／燕市／糸魚川市／妙高市／五泉市／上越市／阿賀野市／佐渡市／魚沼市／南魚沼市／胎内市／聖籠町／弥彦村／田上町／阿賀町／出雲崎町／湯沢町／津南町／刈羽村 関川村／粟島浦村 【国土交通省】国土地理院北陸地方測量部／北陸地方整備局／気象庁新潟地方気象台 【報道機関】新潟日報社

お問い合わせ 防災・減災 新潟プロジェクト2024実行委員会（事務局）国土交通省 北陸地方整備局 企画部企画課 tel 025-280-8880

防災・減災 新潟プロジェクト



ホームページ X (旧Twitter)